

しかしまだ移植後間がないため、細い個体ばかりであること、また移植後の生育が思わしくない種類があることが課題です。これからも整備を続けますので、月の石公園のように年を重ねるごとに森になっていく過程が観察できると思います。「カエデの森」で自分の好きなカエデを見つけて、長い目で見守っててください。

### (3) 体験ゾーンの新設

体験ゾーンは、3つのコーナーで構成するハンズオンを重視した展示です。小中学校1クラスの児童生徒が、博物館ならではの実物とふれあう様々な体験をとおして、自然科学の楽しさに出会うスペースを目指してつくりました。今回のリフレッシュオープンに向けた準備で一番苦勞した部分です。

今までオリエンテーションホールの奥の中央には、パレオパラドキシアの骨格復元群と産状模型がありました。さらにその奥には小鹿野町般若産のパレオパラドキシア化石が展示してありました。これらを壁沿いに移動して化石と骨格復元群、産状模型に一体感を持たせ、展示のわかりやすさを高めることができました。そして次にビデオコーナーを改装しました。こうして生み出したスペースを体験ゾーンとしました。

体験ゾーンの一つの目玉は、「ディスカバリーコーナー」です。ディスカバリーの名のとおり、観覧者が実物に触れて楽しい発見ができる展示です。ここには仕掛けのある引き出しや棚があり、いろいろな化石や骨など当館の資料や模型が置いてあります。動物、植物、化石、岩石・鉱物などの参考図書も置いてあります。



ディスカバリーコーナー完成予想図

次は「カエデコーナー」です。館庭の観察園「カエデの森」の眺めが良い場所にカエデをはじめとした植物などの資料の観察ができるテーブルと、座ってくつろげるベンチを設置しました。ここでは、ペーパークラフトなどでタネの散布する仕組み学び、植物の不思議を体験することができます。

最後は、今までも人気があった「触れる剥製コーナー」です。ここでは博物館が収集したけものや鳥の剥製に触れることができます。今回、長期間展示してきた剥製の一部を入れ替えました。

### (4) ボランティアによる展示解説

今までも当館には、職員とともに活動するボランティアの方々が登録されていました。しかしその活動内容は、野外調査、資料の収集や整理、教育普及事業などに限られていました。そこでこの休館中に展示解説ボランティアの募集を行ったところ、10名の応募がありました。5回の研修を終え、リフレッシュオープンにあわせて展示の解説にデビューします。



仮事務所での展示解説ボランティア研修

その他にも、皆さんの関心が高い地震コーナーや、地球規模の自然現象をスクリーンで再現して、その変化の様子をコンピュータで操作し体感するダジックアースコーナーも取り入れました。

これらの新たな取り組みは、当館の展示を大きく変えるものではありません。しかし今までのように、観覧するだけではなく、体験をキーワードにして様々な形で参加できる「みんなの博物館」に大きく生まれ変わろうとしています。今、その第一歩を大きく踏み出したところです。

(うえだ まさひろ・担当課長)